

天野天街演出版『わが星』、観てきました！

熊本に拠点を置く、夕辺東亜主宰の演劇ユニット「雨傘屋」。その第4回公演として、ままごとの代表作『わが星』が上演されました（2013年5月31日～6月4日@Gallery ADO）。演出を手掛けたのは、名古屋を拠点に活動する少年王者館の天野天街氏。ここでは、雨傘屋主宰である夕辺東亜こと阿部祐子氏に上演のきっかけなどについてお聞きしました。

——雨傘屋を結成したきっかけを教えてください。

ふとしたきっかけで戯曲を書いてみたらわりとうまくでき、気をよくし、雨傘屋というユニットを立ち上げました。が、まもなく自分で作・演出をする気がなくなり、現在は熊本にWSで来られて以来のご縁の演出家・天野天街さんに滞在製作していただいています。

——これまでの活動は？

09年に『2090年、子どもの領分』作・演出・夕辺東亜で旗揚げし、11年に第2回公演『隣にいても一人』作・平田オリザ 演出・天野天街、12年に



2013年6月、大石、宮永、端田と、『わが星』出演者の中島佳子さんと、熊本まで『わが星』を観に行きました。
【1日目】宮永・端田・中島の3名、大雨の熊本に上陸。お昼ご飯に馬刺しをいただきました。
【2日目】午前中に市内のマーケットにてベルギー帰りのチェルフィッツの岡田利規さんと再会。大石も合流。① お昼過ぎ、劇場のある河原町に移動して路地裏散策、河原町、ステキな場所でした。② 終演後、宮永・中島は演出の天野さんと午前3時までお酒を飲み交わしました。天野さん、ありがとうございました。
【3日目】熊本城へ。④ 日本一の名城を堪能して、東京へ帰りました。熊本また行きたいっす！



雨傘屋『わが星』

「天野天街さんの劇空間そのものような河原町で、たくさんの音の粒に包まれながら、瞬く星たちを観ました。柴くんのテキストの中に新たなたくさんの星を発見した天街さんの天球儀に、すっかり魅せられました。世界を立ち上げていた俳優さんたちにも拍手。惜しむらくは主宰の阿部さんとお話できなかったこと。いつかお茶できたらなあ。」端田新菜

ままごとの『わが星』のエッセンスはそのままに、まったく違った肌触りの作品が出来たと思いました。見せ方をいじくっても変容しない核のようなものを感じた作品でした。

——雨傘屋の今後の活動を教えてください。

特にありません。来年も公演できると思っています。

column

第2回「縁談のテーブル」

大石将弘「俳優」

大石が、いま話を聞きたい人に会いに行く企画。今回は前回に続き、劇団に所属している同世代の役者さん二人と、僕たちが抱える二つの問題について話しました。

【後編】

「30歳問題」

大石 何かの現場の間にオフアールとかがあつて行けなくて、それがもどかしいと思っちゃう。結局どつちかしか選べないんだ。

坂口 難しいのは、そういう時のために3カ月くらいあけて……。

大石 結局何もなっていない。

坂口 そこ耐えられないとだめだなって思つて。

大石 辰平さん、CMのギャラ使い切らないと次のCMの仕事入らないと思つて、お金使ひ切つたつていう（笑）。

坂口 回転寿司行つたり、無茶苦茶使つて後悔している（笑）。

菊池 回転寿司はないね。

坂口 僕一個話したいのは、30歳問題。いつの間にか30歳になる。

大石 僕は今年30になりました。僕は20代に全然やれていない気がして。20代はがむしゃらに何でもやって、30代はの中から選んでいくみたいなイメージがあつただけ。

菊池 分かる。

坂口（菊池に）おれたちが出会つたのが24くらいじゃん。あの時の先輩たちが当時ちょうど30くらいで、え、そんな大人になつてねえぞつていう。

菊池 なんも変わってないよね。

大石 これからどういう仕事かしたいとかいうビジョンはありますか？

菊池 映画に出たい。あともちろんKERAさんの舞台に出たい。

大石 はるちゃん、菊池は去年今年と

<お相手> 菊池明明（ナイロン100℃）と坂口辰平（ハイバイ）



みらいのおとな、とむかしのこども、がいつしよにみる演劇。

「日本の大人」開幕！



ままごと

8月上旬にいいよお目見えするままごとの新作『日本の大人』。あいちトリエンナーレ2013の委嘱作品として世界初演した後、4地域を巡回します。

本作は、柴にとつて初の「親子向け」作品。これまでままごとを観てくたつていた方はもちろん、今回は一人でも多くのお子さんに観ていただきたいという想いから、柴は創作を前に、こんな言葉をつづっています。

これは、子供から大人まで、いつしよに楽しめる「えんげき」です。
こで言う「子供」から大人まで、とは、小学4年生くらいから死ぬ直前まで、です。
自分は、まわりより「子供」だと思つてゐる人は、きつと何年生でもないようです。
自分は、まわりより「大人」だと思つてゐるような、本当の「子供」は、ちよつとえんげきしてください。

僕が、はじめて「えんげき」を観たのも、小学4年生のとき

でした。体育館で、体育座り、宮沢賢治という人が書いた『注文の多い料理店』というお話を観ました。

あのとき、だれも、僕がえんげきをつくる大人になるなんて思いませんでした。僕も、思いませんでした。

この「えんげき」を観て、あなたがどう変化するのか、それはだれにもわかりません。

でも、観る前よりも、すこしだけ「大人」になることだけは、まちがいありません。

もしあなたが大人なら、子供といつしよに。もしあなたが子供なら、友達といつしよに。

夏の終わりに、ぜひ親子で、あるいはお友達同士で、劇場にお出かけください！



稽古場より

NEXT

■柴幸男【演出】・大石将弘【出演】
宮永琢生【製作統括】

ままごと「日本の大人」名古屋・豊橋・新潟・小豆島・伊丹ツアー

2013年8月10日[土]～15日[木]
@愛知県芸術劇場小ホール
8月17日[土]・18日[日]
@穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース
8月22日[木]・23日[金]
@リゅうとびあ新潟市民芸術文化会館 スタジオB
8月25日[日]～27日[火]
@小豆島 遊児老館（旧坂手幼稚園）
8月30日[金]・31日[土]
@伊丹 AI・HALL

■ままごと【作・演出・出演】

瀬戸内国際芸術祭2013【秋期】
みなとあるき作品の上演と、旧幼稚園を演劇図書館にする企画を予定
2013年10月5日[土]～11月4日[月・祝]
@香川・小豆島 坂手港

編集後記

第7号は端田さんと宮永さんの通常のコラムはお休みし、天野天街演出版、雨傘屋『わが星』のレポートをお届けしました。劇団員にとつて、非常に刺激的な体験だったようですね！ 次号、第8号もお楽しみに。（熊井）

企画・編集＝ままごと
構成＝熊井玲
デザイン＝西山昭彦